

視察報告

視察先一覧

No.	視察日	方法	視察校名	所在地	設置者	主な観点	スライド番号
1	R3.12.3	オンライン	神奈川県立秦野養護学校／ 秦野市立末広小学校	神奈川県 秦野市	県／ 市	交流及び共同 学習	2
2	R3.12.6	実地	神戸市立灘さくら支援学校／ 灘の浜小学校	神戸市	市	交流及び共同 学習	8
3	R3.12.6	実地	大阪府立生野聴覚支援学校	大阪市	府	情報保障／ 地域交流	14
4	R3.12.7	実地	大阪府立大阪南視覚支援学校	大阪市	府	ICT	20
5	R3.12.21	実地	愛知県刈谷市刈谷特別支援学校 ／小垣江東小学校	愛知県 刈谷市	市	交流及び共同学 習／医療的ケア	26
6	R4.1.11	オンライン	新潟県十日町市立ふれあいの丘 支援学校／十日町小学校	新潟県 十日町市	市	交流及び共同学 習／複合化	31
7	R4.1.13	オンライン	熊本県立熊本かがやきの森支援学校	熊本市	県	福祉避難所／ 医療的ケア	36
8	R4.1.13	オンライン	熊本県立熊本支援学校	熊本市	県	福祉避難所／ 教室不足	42
9	R4.1.14	オンライン	熊本県立盲学校	熊本市	県	福祉避難所	46
10	R4.1.14	オンライン	熊本県立熊本聾学校	熊本市	県	福祉避難所	51
11	R4.1.14	オンライン	熊本県立熊本はばたき高等支援学校	熊本市	県	福祉避難所／ 地域交流	55

1

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

公立小学校の空き校舎をバリアフリー改修し、特別支援学校を設置。

主な観点 交流及び共同学習

所在地 神奈川県秦野市末広町6-6

障害種 知的障害

児童生徒数

秦野養護学校 秦野市立末広小学校
知的障害教育部門
小学部21名 531名
中学部13名 (特別支援学級18名)

施設情報

校舎： 鉄筋コンクリート造 2階建て 延床817㎡ 昭和56年	校舎： 鉄筋コンクリート造 4階建て 延床5,806㎡ 昭和52年	屋体： 鉄骨造 2階建て 延床779㎡ 昭和52年
---	---	---------------------------------------



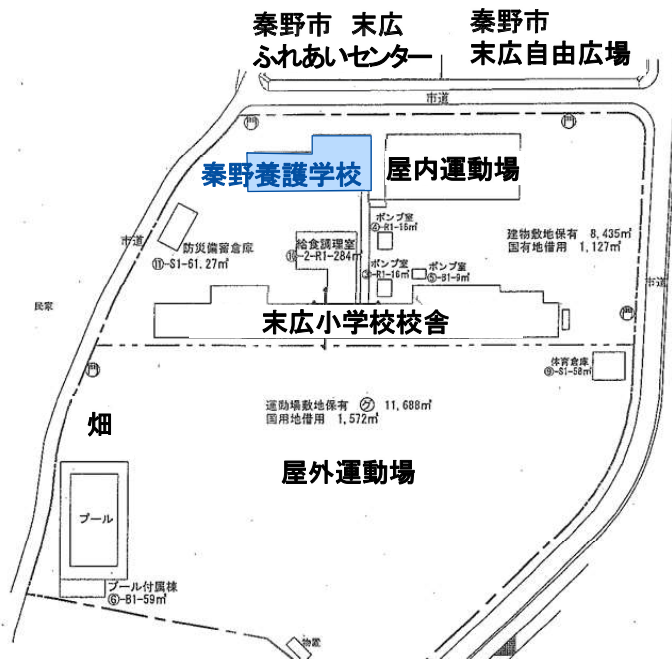
背景・沿革

昭和33年に病弱の養護学校として秦野市落合に開校。その後、知的障害教育部門高等部も設置。平成28年に、秦野市内の知的障害教育ニーズの高まりにより、市の『『はだの』の子は『はだの』へ』との願いと、県の「ともに生きる社会」の願いが合わさり、小学校の空き校舎を活用して小学部中学部を設置。

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

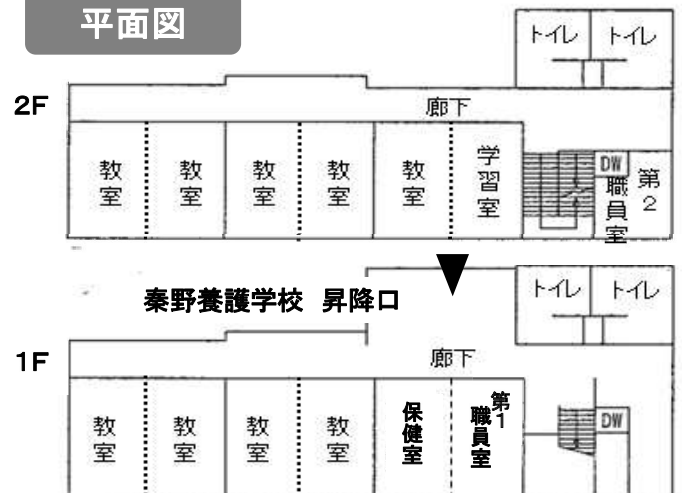
配置図



○末広小学校の運動場や畑なども利用。

○小学校との交流及び共同学習は、屋内運動場で音楽の発表を鑑賞したりして実施。

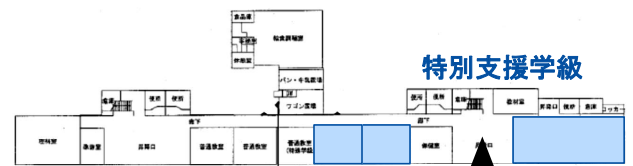
平面図



秦野養護学校
末広校舎

秦野養護学校
末広校舎

屋内運動場



末広小学校(1階)

3

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

必要な整備

- 知的障害教育部門ではあるが、出入口や上下階移動のバリアフリーが必要
- 和式トイレが残っており、洋式化とともに児童生徒の実態に合わせた関連設備が必要
- 別の学校として運営するにあたって必要な事務室などの管理部門のためのスペースを確保

実際の整備

- 養護学校の開設に伴う既存施設の改修で、間仕切りを設置。
- 体温調節が苦手な児童生徒のために、教室に空調を設置。
- 昇降口へのスロープ設置や階段への手すりを設置。
- 養護学校開設に伴い和式トイレを洋式に変更。
- 身体を洗うための簡易シャワーや汚れた服の洗濯機置き場を整備。
- 2階ベランダ部分に転落防止柵を設置。末広校舎には事務室がないのでインターフォンを設置。
- 校舎全体に声が届くよう放送設備を職員室に設置。
- 校舎全体を学びの場とするため廊下に空調を設置。
- 面積を最大限有効に使う必要があり、指導スペースや作業スペースを校舎内に増設。

今後の課題

- スタート時にうまくいった取組やそもそもの設立理念が年数を重ねるにつれ、うまく引き継がれなくなったものもある。今後は、双方の教員が交流及び共同学習の取組について、より理解していく必要がある。単発のイベントではなく、継続して教科の中へ位置づけるなど、検討する必要がある。
- 小学校内に中学部を設置することには、発達段階及び教育課程の違い、本人、保護者、地域等の捉えなどとともに検討していく必要がある。(例えば、中学部の交流及び共同学習は小学校ではなく他の中学校で行う、など。)
- 児童・生徒数の増加に伴いスペースが不足している。

4

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部



小学校屋内運動場における養護学校の授業



小学校屋外運動場脇の畑における授業



小学校との合同避難訓練



小学校児童の演奏を聴く、交流及び共同学習

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部



小学校特別支援学級との給食交流



閉じた間仕切り



スロープ



空調



階段の手すり



パラスポーツ(フライングディスク)教室



空調設置された廊下での学習



昇降口横に設けた指導スペース

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部



個室トイレ



簡易シャワー



洗濯機置き場



転落防止柵



インターフォン



放送設備

7

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

特別支援学級の需要が高まる人口増加地域で、新たな学校を新設・新築。

主な観点 交流及び共同学習、ICT

所在地 兵庫県神戸市灘区摩耶海岸通2-2-1,2

障害種 知的障害
肢体不自由

児童生徒数

灘さくら支援学校			
	知的	肢体	計
小学部	32	18	50
中学部	57	13	70
高等部	—	13	13
計	89	44	133

灘の浜小学校

399名
(特別支援学級4名)

施設情報

鉄筋コンクリート造
6階建て
延床11,928㎡
令和3年

鉄筋コンクリート造
5階建て
延床11,246㎡
令和3年

背景・沿革

- 市内ではインクルーシブ教育システムの考え方が浸透し、特別な支援を必要とする児童生徒は小中学校へ流れている傾向にある。その中で、特に両校の学区は人口増加地域でもある。
- 阪神・淡路大震災後の都市計画でまとまった学校用地があったため、特別支援学校と小学校を、近隣学校との学区整理を行い、一体整備。

8

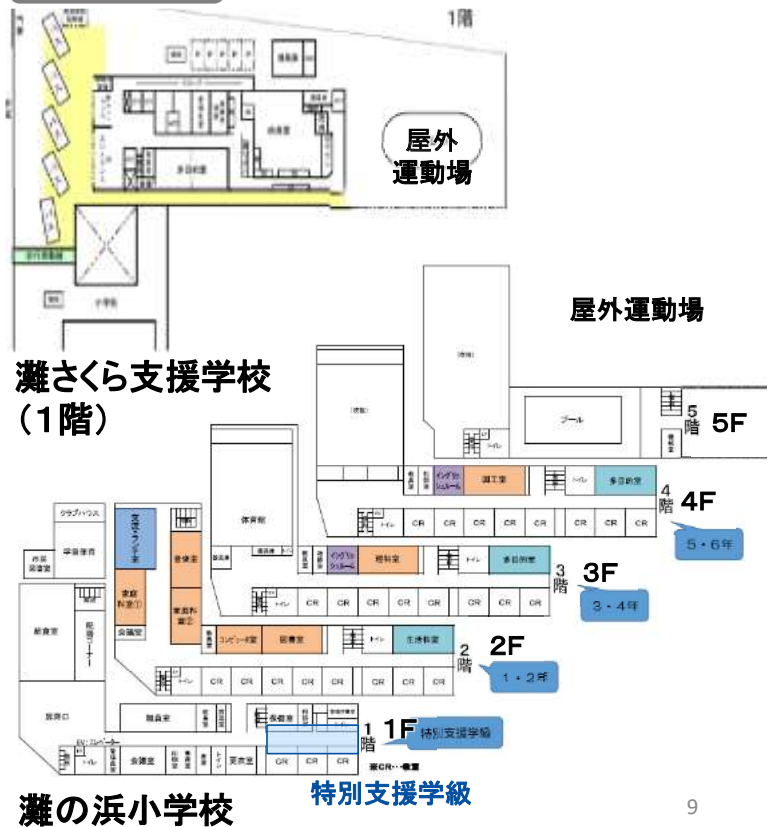
2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

配置図



- 校舎の連絡部分や屋外運動場で自然と交流できる計画
(コロナ禍で校舎の連結部分は未活用)

平面図



2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

必要な整備

- 市内初の小学校と特別支援学校の合築にあたり、双方の交流の在り方・空間整備に配慮する必要。
- 小学校も含め計画敷地全体にわたってバリアフリー化が必要。
- 知的障害児への対応のため、カムダウン室の配置等、施設整備上の配慮が必要。
- 小学校・特別支援学校含め、ICT活用をしやすい環境とする必要。

実際の整備

- 障害の多様化に対応し障害種別に関わりなく、必要に応じ部門を越えて学習活動が行えるよう整備。
- ICT活用のため、端末の見やすさの観点などから小学校・特別支援学校の普通教室に暗幕を整備。
- 小学校の屋内運動場や、交流・ランチルームは交流及び共同学習のために特別支援学校に近い位置に配置。
- 交流及び共同学習にも使われる特別支援学校の2階の多目的室は、可動間仕切りで区切られ3区画を一体的に活用することもできる。
- 交流及び共同学習は、それらの空間のほかにも音楽室、HR教室でも行われる。
- 特別支援学校には肢体不自由児のための感覚学習室、知的障害児等のためのカムダウン室、幻想的な模様投影等により精神を落ち着けるスヌーズレン室など、自立活動等に必要な諸室を整備。
- 特別支援学校では、4台のエレベーターや上下階移動用のスロープを含め校内各所は十分な動線のバリアフリー化が図られているほか、教室へのバリアフリースイッチの設置や屋内運動場のステージやプール内部のバリアフリー化も図られている。
- 水害時の垂直避難も考慮。屋内運動場など避難所を想定している1・3階に非常災害トイレを設置。
- 肢体不自由部門を3・4階に配置。

今後の課題

- 開校後、コロナ禍の影響で当初想定されていた交流及び共同学習が展開できておらず、今後実際に実施する中で、課題を洗い出していく必要。

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校



電子黒板を活用した小学校の授業



特別支援学校の
ICT対応のための暗幕



小学校の屋内運動場



小学校の屋内運動場の空調機



小学校 交流・ランチルーム



特別支援学校 多目的室

11

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校



バランス感覚など様々な
訓練が行える感覚学習室



器具の吊り下げフックなどもついた
肢体不自由部門の教室



机がコの字配置された
知的障害部門の教室



屋外運動場に設置された個別スペース



複数階に配置されたカームダウン室

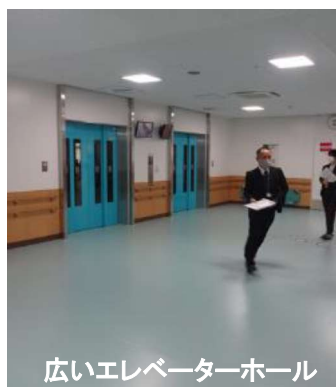


スノーズレン室

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校



床を見られない
肢体不自由児にも
階が分かるような工夫



広いエレベーターホール



水平床面に色がついた
上下階移動用スロープ



教室内に整備された
バリアフリートイレ



舞台にもスロープで上られる
特別支援学校の屋内運動場



バリアフリー化された屋内プール



非常災害トイレと案内用サイン

13

3. 大阪府立生野聴覚支援学校

早期教育のための教室や相談室の充実した聴覚支援学校

主な観点 情報保障、地域交流

所在地 大阪府大阪市生野区桃谷1-2-1

障害種 聴覚障害

児童生徒数

(令和3年5月1日現在)

	合計	うち重複
幼稚部	44	8
小学部	52	19
中学部	25	4
計	121	31

施設情報

鉄筋コンクリート造
4階建て
延床8,743㎡
平成14年



背景・沿革

大正15年に創設された私立の聾口話学校が、昭和8年に大阪府に移管。平成14年に現在の校舎が完成。

3. 大阪府立生野聴覚支援学校



17

3. 大阪府立生野聴覚支援学校



18

3. 大阪府立生野聴覚支援学校



病院など比べ親しみの湧く雰囲気、
幼児の聴力測定等もスムーズに行える相談室。

3室設けられた
専用の幼児相談室



専用の幼児相談室に配置された
幼児の体格に合った便所



19

4. 大阪府立大阪南視覚支援学校

ICTを活用した教育を実践する視覚支援学校

主な観点 ICT活用、情報保障

所在地

大阪府大阪市住吉区山之内1-10-12

障害種

視覚障害

児童生徒数

(令和3年5月1日現在)

	合計	うち重複
幼稚部	7	4
小学部	11	7
中学部	13	6
高等部	52	8
計	83	25

施設情報

鉄筋コンクリート造
5階建て
延床9,469㎡
平成25年・27年

背景・沿革

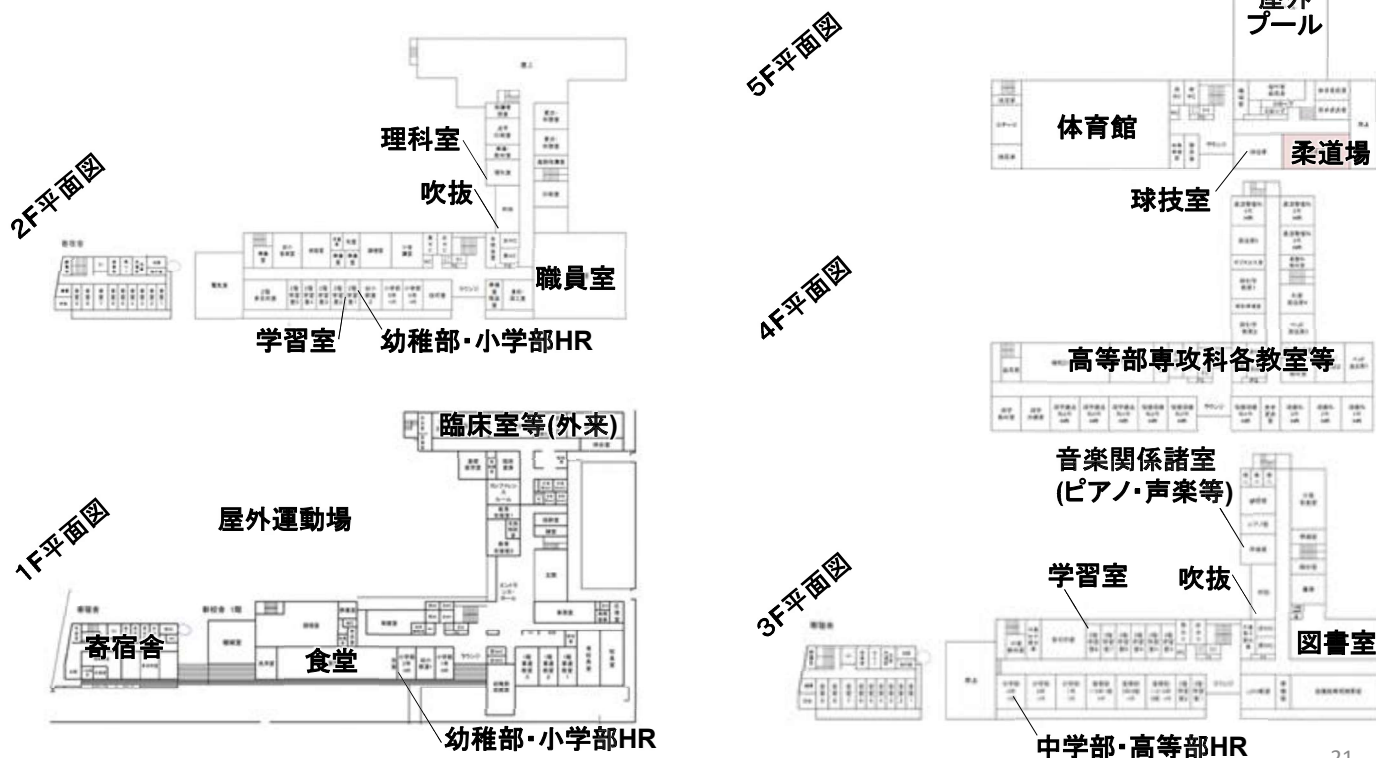
- 大正3年に創設された私立の訓盲院が、昭和3年に大阪府に移管。昭和13年に現在の地に移転。
- 現在の校舎の建築計画時には想定されなかった知的障害を始めとする重複障害児が増加している。



20

4. 大阪府立大阪南視覚支援学校

平面図



4. 大阪府立大阪南視覚支援学校

必要な整備

- 視覚障害のある幼児児童生徒に対する様々な情報保証が求められ、特に最先端のICT機器の実践的な活用が求められる。
- 在校生の進路を考慮した専門的な教育が求められる。

実際の整備

- 以下のように様々なICT機器やタブレット端末のアプリ等を活用できる施設計画としており、アプリの特性によっては、児童生徒自身で操作できるよう、教員自ら作成した装置で教育が行われている。
 - ・頭に装着するディスプレイで遠方の視界を得る装置
 - ・肉眼に代わり物体の色や輝度等を検知し、音声で知らせるアプリ
 - ・近づきにくいものを撮影し観察等ができる弱視レンズアプリ
 - ・3Dプリンタで、理科の図や地形の立体模型を印刷し、形状や位置関係を把握できる教材
- 教室では電子機器の電源は、視覚障害児の通行の妨げとならないよう、天井から吊下げている。
- ICT対応だけでなく全ての書籍を積み重ねずに配置できるよう、落下防止縁のある広い机を使用。
- 視覚障害児が空間把握をしやすいよう、教室のロッカーの面は面一に揃っている。
- 色の識別ができる児童生徒にわかりやすいよう、フロアの色や、階段の手すりに設置したバンドの数などで階数をわかるようにしている。
- 視覚障害児が空間把握のため、マッサージの教室には点状ブロックで中央線が引かれている。
- 通常の避難所に指定されており、体育館には空調が整備されている。

4. 大阪府立大阪南視覚支援学校

今後の課題

- 視覚障害のある幼児児童生徒数全体の減少に対し、そのうち知的障害との重複障害のある幼児児童生徒の急増は、施設整備時に想定しておらず様々な施設整備上の課題がある。
 - ・パーティションで区切った教室に知的障害児が汚してしまった際の処理のための水回りが無い
 - ・知的障害児のためのクールダウンスペースが各階になく移動に多大な労力を費やしている
- 重複障害児が増え、また、ベテラン教員の定年時期も迎え、支援教育の専門性や単一の視覚障害児への指導方法の継承が難しくなっている。
- 吹抜けが校舎中央にあることにより、音が階を跨いで響いてしまい、視覚支援学校として重要な静寂を保つことに課題がある
- 建築設計者が明るいほうがよいと思って計画したガラスカーテンウォールのエントランスホールは、一部の幼児児童生徒には却って眩しい空間となってしまった（※現在は巨大なブラインドで対応）。
- エントランスホールを大きい空間とした関係で柱の本数が多くなってしまい、実際に使ってみると、視覚障害児にとって空間把握がしづらく、不評だった。特に、知的障害との重複障害の場合、幾つ目の柱をどちらに曲がるなどの空間把握のための手がかりを覚えられない。
- 学級の児童生徒数が少ないため特別教室の面積も小中学校と比べて狭く、教材の多くある理科教室などは手狭となっている。

23

4. 大阪府立大阪南視覚支援学校



天井から吊り下げた電源



多くの教材を積むことなく使えるよう
広く設計された縁のある机



面が凹凸なく面一に
整えられた教室のロッカー



凹凸のある壁面を工夫して
面一となるよう器具を配置



面一で物品の置かれていない廊下

4. 大阪府立大阪南視覚支援学校



25

5. 愛知県刈谷市立刈谷特別支援学校・小垣江東小学校

主な観点

- 小学校をバリアフリー化し特別支援学校を併設(肢体不自由)
- 刈谷豊田総合病院と連携のうえで医療的ケアを提供(ケアルームの整備)

所在地

愛知県刈谷市小垣江町白沢36

障害種

肢体不自由

児童生徒数 施設情報

刈谷市刈谷特別支援学校

	学級	人
小学部	5	20
中学部	7	10
高等部	6	12
計	18	42

鉄筋コンクリート造
3階建て
4,322㎡
平成29年竣工

刈谷市小垣江東小学校

	学級	人
通常学級	9	230
特別支援学級	2	2
計	11	232

鉄筋コンクリート造
3階建て
3,005㎡
昭和58年竣工



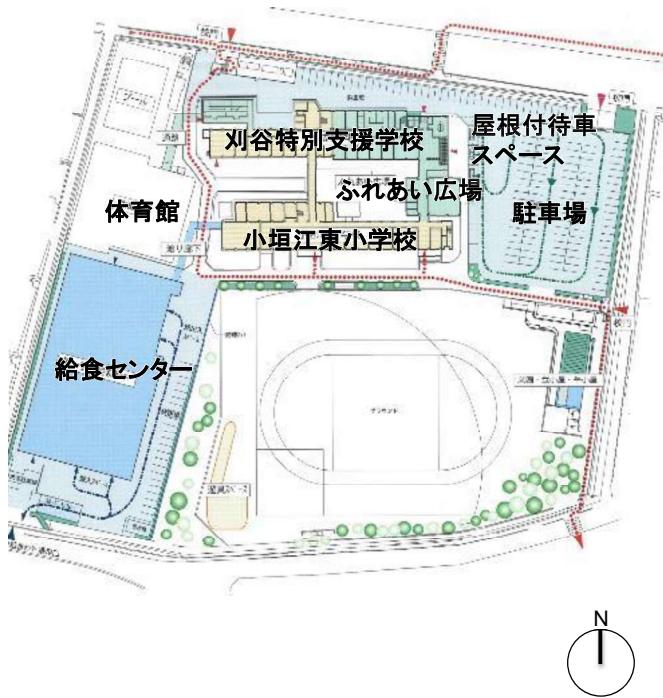
背景・沿革

- H25年から検討、H29年に刈谷市立小垣江東小学校の北東棟の増築及び北西棟の改修により併設・開校。給食センターも同時に併設
- 設計はプロポーザル方式を採用
- 医療的ケアを必要とする児童生徒のため、刈谷市が刈谷豊田総合病院と連携して常時看護師を配置
- 当初、小学校の保護者から学習環境の変化について懸念があったが、子供たち同士の触れ合いを目にして思いが変化

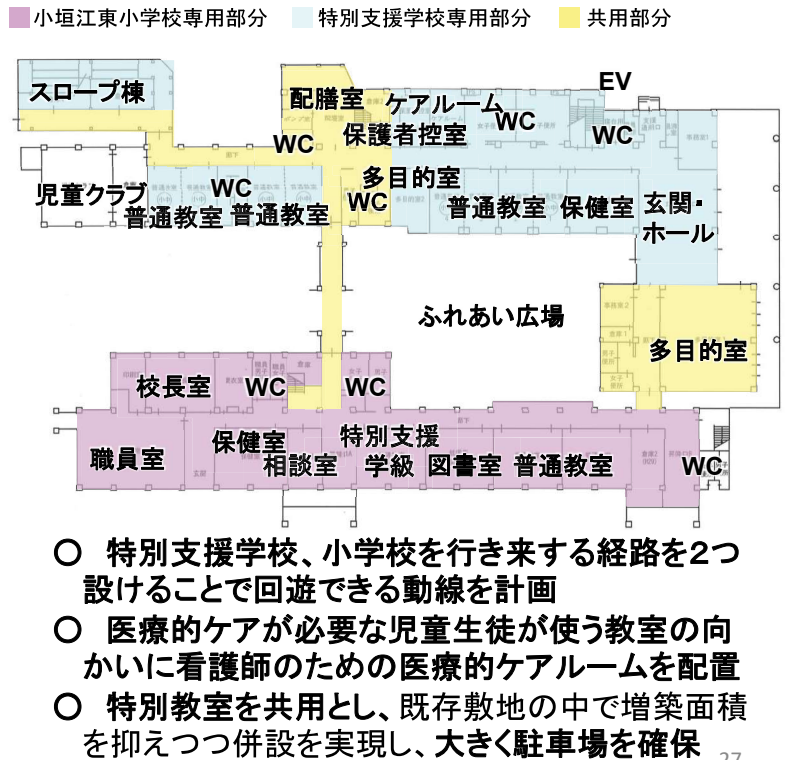
26

5. 愛知県刈谷市立刈谷特別支援学校・小垣江東小学校

配置図



平面図(1階)



5. 愛知県刈谷市立刈谷特別支援学校・小垣江東小学校

必要な整備

- 児童生徒の送迎のための駐車場の確保と動線の整備、バリアフリー化
- 両校の児童生徒が利用可能なスペースの確保
- 関係機関との連携による児童生徒一人一人に対応した医療的ケアの提供

実際の整備

- 体育館等、校舎外の施設を利用できるように専用のスロープと屋根の整備により動線を確保
- エレベーターに加えてスロープ棟を別途整備し、車いすのみで移動可能な上下階の動線を確保
- 両校の児童生徒が交流するための「ふれあい広場」を整備。校舎と「ふれあい広場」の出入口は段差を無くすなど、バリアフリー化にも配慮
- 時間に余裕をもって利用できるトイレを各階に3～4か所に整備
- 刈谷豊田総合病院から出向看護師が常駐し、個別に医療的ケアを提供できるスペースを確保
- 医療的ケアのため、専用のケアルームのほか、66.4㎡の室を児童1～2人、教員1～2人で使用する広い教室を確保するとともに、事前に病院からの助言を踏まえて必要な機器・器具を配置
- 電源が最重要であるため、停電時も稼働する電源装置(3日間)、太陽光発電、蓄電池を完備

今後の課題

- 車いす使用者用のスロープ等による動線及び、屋根・庇を確保しているが、実際に使用するなかで新たな問題が明らかになるため、継続的な検討が必要
- 最大定員は70名を想定しているが現在の40名程の時点で駐車場の使用率は高い。児童生徒数の増減に伴うスペースの確保が必要
- 医療的ケア用の電源確保が最重要。容量・配線が必要

5. 愛知県刈谷市立刈谷特別支援学校・小垣江東小学校



児童生徒の送迎用のための駐車場と玄関の間に整備された屋根



校舎と体育館の動線を確保するためのスロープと屋根



1階から3階まで車いすのみで移動可能なスロープ棟



特別支援学校と小学校の中間で両校の生徒が交流することのできる「ふれあい広場」

29

5. 愛知県刈谷市立刈谷特別支援学校・小垣江東小学校



オストメイト・個室にベッドを備えたトイレ



児童生徒一人一人に対応した医療的ケアを実施するための専用のケアルーム



広いスペースを確保した保健室と収納が可能なベッド(奥)



併設した給食センターから障害等に応じた給食を提供するランチルーム

67

30